

第一次世界大戦とスペイン風邪



安部
光堯
Kouichi Abe

ウイルスは生きている その2(同書15頁～21頁)

私は、ウイルスの正体を見たくて、色々と文献や、ネット、小説などを読みはじめた。すると、どうしても、人類史上最大といわれる疫病である「スペイン風邪」をおさらいしない訳にはいかない気がしてきた。

こんな話は耳にタコができるくらい知っていると言う人は、途中で、読むのを give up して貰いたい、今、読み出している、『ウイルスは生きている』と言う本は、非常に、分かりやすく、人間味あふれている。且つ不必要な不安を取り除きながら、モンスター、スペイン風邪の実態を描いている。

この部分は、恐ろしすぎるが、敵の実態を知る上では避けて通れないので、敢えて、記述することにする。(あと一つエイリアンとしての記述も不気味な所が、あるがこれは、映画の世界なので、想像の上での不気味さである。)

そう言う前おきで、ちょっと、未だに関心を捨てきれない人は、お付き合いして下さい。

① スペイン風邪の流行する4年前の1914年、ヨーロッパではサラエボ事件を皮切りに、人類最初の世界大戦が始まり、4年の戦火ののち、1918年11月、ドイツ、オーストリアハンガリー帝国の中央同盟国と、とイギリス、フランス、ロシア及びアメリカ、日本等の連合軍との間で休戦協定が締結された。この4年間で、犠牲となった死者の数は、戦闘員が約850万人、非戦闘員が約650万人にも上った。(合計1500万人)ところがその世界大戦と時を同じくして、人類はもう一つの脅威と相対峙した。それが1918年から1919年にかけて世界的に流行したス



ペイン風邪である。

② この病気が世界的に蔓延し始めた1918年は、まだ第一次世界大戦の最中であり、自国は自分に不利な情勢は厳しい報道統制下にあった。その為、自国に深刻な病気が蔓延していると言うような情報は秘匿された。しかし第一次世界大戦の当時、情報統制がされていなかったスペインではこれが大きく報じられ、世の人の知られる所となり、このためスペイン風邪の名で呼ばれるようになった。

③ 実際にはこの病気は1918年の初めにアメリカで その初期と思われる症例が報告されていた。

④このスペイン風邪は、人類が経験した史上最悪のパンデミックであり当時の世界人口18億人のうち約3割の6億人が感染し、控えめな推定でも2000万人、多いものでは約5000人もこの病によって命を落としたと言われている。(日本でも感染者数2380万人、死亡者38万人と言う調査がある。)

⑤ アルフレッドWクロスビーが書いた『史上最悪のインフルエンザ-忘れられたパンデミック』には、モンスターに蹂躪されたフィラデルフィアの様子が次の様に書かれている。

フィラデルフィア市民に最も破局的な混乱に陥ったのは 死体埋葬の処理だった。市で唯一の身元不明死体公示所はぞっとするような光景だった。 通常の死体収容能力は36台だったが、今や数百の死体がそこに置かれていた。 遺体は、建物にあるほとんどすべての部屋、そして通路の奥まで3から4段に積み上げられ薄汚れたしばしば血に染まったシーツに覆われていた。

⑥ 身元不明の死者が街頭に転がるような状態になると感染のリスクを避けるために、多くの人が家から1歩も出られず閉じこもるしかなくなる。こういった状況では、医師や看護師といった医療関係者が最も感染のリスクが高く、実際に医療従事者が病に倒れることになれば地域の医療体制も崩壊する。そうなると思う完全にお手上げ状態である。死の恐怖に覚えながら怯えながら、嵐が過ぎるのをひたすら待つしかない。

⑦ この凄まじい恐怖をもたらしたスペイン風邪の病原体は、言うまでもなくインフルエンザである。インフルエンザは風邪症候群と呼ばれる感染症の1つであり、軽い感染であれば、発熱、悪寒、鼻水、咳などの症状で、他のウィルスが原因となる普通の風邪と



見分けがつかないことも多い。ただインフルエンザでは、関節痛、筋肉痛等を伴った高熱が見られ特に重篤化するのが特徴である。重度の感染になると気管支炎や肺炎を併発する例も多いと言われている。

⑧ しかしこの1918年から1919年にかけて世界を恐怖に陥れたスペイン風邪は、通常のインフルエンザとは違っていた。一般的にインフルエンザは、乳幼児やお年寄りが多い。しかし、スペイン風邪では見るからに健康そうな20代から30代の青壮年者が次々と感染して犠牲者となった。数時間前まで元気でピンピンしていた健常者が、突然発熱して全身に痛みを訴え口や鼻から血を流すようになり、次の日にはなくなっているということも起こっている。

⑨ ジョン・バリーの『グレートインフルエンザ』と言う本ではインフルエンザに感染した患者の様子が以下のように描かれている。1918年の半ば、死は、今までも見たことのない形で現れた。多くの者たちに見られる出血は傷からのものだが、少なくとも砲弾や爆発で傷ついたものではなかった。そのほとんどは鼻血で、中には咳き込んで血を吐く水兵もいた。耳から血を流しているものもいた。ものすごい咳き込みようだったので、死後、検死解剖してみたら腹筋が、あばらの軟骨から離れてしまっているものさえいた。その多くが苦悶、あるいは、うわ言でも言うように七転八倒し、意思疎通のできるもののほとんど全員が目の後の頭蓋骨に楔を打ち込まれたかのような頭痛と骨が砕けるかと思ほどの激的な体の痛みを訴えた。少数ながら嘔吐する者もいた。死ぬ間際に肌の色が変わる水平がいた。その色が濃すぎて、白人なのか黒人なのか見分けがつかない様なものまでいた。

⑩ このような強烈な症状を起こすスペイン風邪の正体は、本当にただのインフルエンザだったのだろうか、それとも違うウィルスだったのか？この疑問に対する正確な答えは、謎の長い間謎のままで残されていた。然し、その発生から約80年後ついにそのモンスターの正体が明らかにされることになった。それが、前回、私が述べたアラスカのイヌイットの部落の永久凍土の地下に眠るブレディックミッションからのウィルスの発見であった。